



人権教室メニュー表



宮崎地方法務局
宮崎県人権擁護委員連合会

近年では、いじめ問題や少年犯罪などに象徴されるように、子どもたちの他者への思いやりの気持ちの欠如、つまり、人権尊重意識の希薄さが指摘されています。

そこで、私たちの活動において、人権冊子の読み聞かせや、人権ビデオ鑑賞などを通じ、命を大切にする気持ちや他人への思いやりの心を育み、子どもたちが幸せな日々を生きられるよう、県内の小中学校や保育園等に出向き、人権の花運動や総合的な学習の時間等を利用して、「人権教室」の活動を展開しているところです。

宮崎地方法務局と宮崎県人権擁護委員連合会では、年齢や参加人数に応じて、以下のメニューをご提案しております。
(平成29年7月現在)

メニュー1：人形劇「こちら、いじめんこクラブ」

地球侵略を企んで、どれだけ地球人の心が強いかわかる、調べている宇宙人がいる。宇宙人は地球の放送局「いじめんこクラブ」にもぐりこみ、子どもたちの「勇気」を調査している。

今日もいじめに悩む子どもたちの投稿をもとに、直接話を聞きに行き、調査を始める「いじめんこクラブ」。宇宙人の本当の企みには、誰も気づいていない…。

(約25分)



メニュー2：寸劇「友だち」



秋晴れのすがすがしい放課後、勇太君は、仲良し三人組でルンルン気分の下校していた。帰り道で、勇太君が道路に落ちていた千円札を見つける。その拾ったお金で、お菓子を買おうと言う友だち二人と、交番のお巡りさんに届けなくてはならないと言う勇太君。そこで、意見が食い違い、仲間割れのケンカをしてしまう。やがて、「いじめ」へと発展し…。

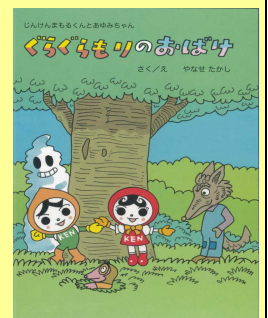
(約25分)

メニュー3：読み聞かせ

ア 紙芝居・絵本「ぐらぐらもりのおばけ」

森の学校に通っている、もぐらのモグ君は、同じ学校のきつねのコンタ君とたぬきのポンスケ君にいじめられている。そのことを聞いた人KENまもる君と人KENあゆみちゃんは、若いもぐらの仲間を集めて、コンタ君とポンスケ君を少し怖がらせてから、いじめをやめさせる計画を立てる。

(15分～25分)



イ 紙芝居「白い魚とサメの子」



白い魚は、ほかの魚とくらべて、泳ぐのが遅く、カラフルでもなく、話をするのも苦手なため、ほかの魚たちからいじめられていた。ある日、サメの子どもが、おいしい魚を食べようとして見つけに来る。白い魚は、「ぼくなんか食べられちゃえば、もういじめられない…」とお母さんに話す。自分の子どもがいじめられていることをはじめて知ったお母さんは、命の大切さを諭す。

突然の嵐がやってきた。泳ぐのが早い魚も、カラフルな魚も、話し上手な魚も、サメの子どもも、流されそうになっていたところ…。

(25分～35分)

ウ 紙芝居「ぼくのきもち きみのきもち」

森の小学校2年生のシバ夫は心のやさしい元気な男の子。シバ夫の悩みは、同じクラスのブル太郎たちが、シバ夫をからかったり、イジワルをすること。クラスのみんなもブル太郎たちにイジワルされるのが怖くて、止めることができない。

遠足の日、シバ夫とブル太郎は、つかみ合いのケンカになり、お互いの体が入れかわってしまう。そのままお互いの家に帰ることに…。

(25分～35分)



エ 紙芝居「ずっとともだちでいたいから」

今日から小鳥の学校の新学期。森の中の宝探しで、カラスのカータンはスズメのチッチと仲良くなる。

しばらくたったある日、森のはずれでカータンとチッチが遊んでいると、三羽のカラス、クロベエとクロスケとクロエがやってきて、チッチをボール代わりにサッカーをしようと二羽をからかう。さらに、カータンをくちばしでつついたり、チッチを突き飛ばし、笑いながら飛び去った。二羽は涙が止まらなかった。そして、次の日も三羽のカラスは…。

(15分から25分)

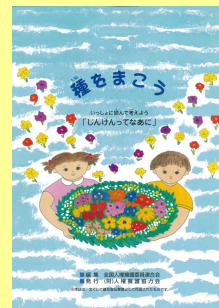


ウ 冊子「種をまこう」

【低学年用】

- ①【いじめ】:「いっちゃん、ごめんね」
- ②【思いやり】:「一つの押し花」
- ③【障害者への理解】:「教えてくれてありがとう」
- ④【いのちの大切さ】:「小さいのち」
- ⑤【男女平等】:「女の子では、なんでいけないの」
- ⑥【高齢者への理解】:「いつもいるのに、どうしたの」
- ⑦【住みよい街】:「だれがすてたの」
- ⑧【外国人への理解】:「ソモス・アミゴス」

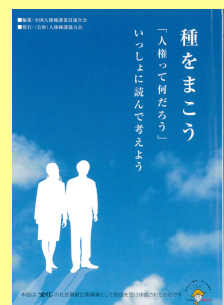
(25分)



【中高学年用】

- ①【いじめに立ち向かう勇気】:「ぼくはどうすればいいんだろう」
- ②【高齢者をいたわる心】:「小さな勇気」
- ③【障がいのある人たちとの共生】:「ぼくらにできること」
- ④【家族がお互いを認め合い、尊重し合うことの大切さ】:「家族の力」
- ⑤【国際交流の大切さ】:「世界の子ども会議」に参加して
- ⑥【インターネットと私たちの生活】:「本当の気持ちを伝えたい」

(30分)



【中学生用】

「全国中学生作文コンテスト」の入賞作文の中から、16編を選び編さんされたものです。作文には、中学生の実体験をもとにした、真実の声、願い、決意が語られています。

(30分)

メニュー4：ビデオ・DVD上映

ア「世界をシェアせに」

世の中のすべての人が幸せになることを願い、旅をしている心優しい人KENまもる君とあゆみちゃん。ある日、野菜村を訪れた二人は、アニマルタウンに届ける新鮮な野菜がマントオバケに襲われ、村人が困っていることを知って…。

(15分)



イ「見上げた青い空」

いじめを苦にした良太は、幼なじみの岸田へ最後のメッセ

ージを残して飛び降り自殺をしてしまった。良太を助けられなかった岸田は、良太をいじめた中心人物に仕立てられた上に、新たないじめの対象にされてしまい、転校することになったが…。

(34分)

ウ「プレゼント」

小学4年生の綾香は、同級生の美由紀の誕生日に手作りの写真立てをプレゼントする。それは、美由紀のことを思って作ったプレゼントであったが、美由紀の気に入るものではなかった。腹を立てた美由紀は、それから綾香にいじわるを始める…。

(17分)

エ「未来への虹」

茨城県からおじいさんのところへ遊びに来ていた正太は、いとこの香奈と「国立療養所多摩全生園」に住む平沢さんへおつかいを頼まれた。正太は、平沢さんの容姿に驚き、戸惑いを覚えるが、「ハンセン病」という病気を知り…。

(30分)

オ「桃色のクレヨン」

8年ぶりに、1才年上のいとこの雪ちゃんが外国から帰ってくることになり、美奈子の胸は期待でいっぱい。ところが、美奈子の前に現れた雪ちゃんは、自分が想像していたよりも幼く、「何かへん？」と感じる。父から、雪ちゃんには知的障害があることを知らされ、戸惑った美奈子は…。

(28分)

カ「インターネットの向こう側」

半年前、いじめ問題を克服したはずの青野北高校の2年A組だったが、ここにきて「学校裏サイト」を利用した「ネットいじめ」の問題が起きていた。同時に、「なりすまし」の「プロフ」を作られ被害を受ける生徒も。

担任教師の高木雄介は、携帯電話やインターネットが抱える問題点について保護者や生徒たちと話し合う…。

(約36分)

キ「勇気のお守り 自分の胸に手を当てて」

「勇気のお守り」

転校生の林太郎は、クラスメイトとの間で起った事件を契機に学校を休むようになってしまう。友人の思いやりや人権擁護委員への相談をきっかけに立ち直っていく…。

「自分の胸に手を当てて」

学校裏サイトの掲示板への心ない書き込みをきっかけに、不登校となる優子。書き込んだ未唯もネットいじめのターゲットとなっていく…。

(31分)

ク「デートDVって何？」

3つの事例から、どうすれば若者が交際相手との間で、暴力の被害者にも加害者にもならずに対等な関係が築けるのかを考えます。

(約22分)

ケ「わたしたちの声 3人の物語

～「全国中学生人権作文コンテスト」入賞作品をもとに～

「全国中学生人権作文コンテスト」入賞作品の作者の中学生が、日常生活の中で「人権」について理解を深めていった「気づき」のプロセスを描いています。

①「いじめをなくすために、今」

作者の中学生が、自らの重い体験を通して、命の大切さを知り、いじめを傍観することを辞めた経験を振り返ります。



②「温かさを分け合って」

作者の中学生が、東日本大震災を機に、人の温かさに触れる一方で、偏見や心ない言動に接し、人権について考えを深めていきます。

③「リスペクトアザーズ」

作者の中学生が、アメリカと日本の対人関係を比較しながら、人権を尊重し合うために何が大切かを考えます。
(約45分)

コ「未来を拓く5つの扉」

「全国中学生人権作文コンテスト」の入賞作品の中から5編の作文を朗読して、アニメーションやイラストで紹介しています。

①「本当の国際化とは」

外国人に対するヘイトスピーチの問題と作者の身近に起こった事件を関連付けて考察しています。

②「電車で咲いた、笑顔の花」

勇気を出しておばあさんの手助けを決意した作者の行動を振り返り、行動を起こすことの意義について訴えています。

③「立ち止まる」

いじめの対象となってしまった作者が、心配して自宅を訪問した担任の先生の言葉によって、いじめを克服した経験を綴っています。

④「NO!と言え強い心を持つ」

元ハンセン病患者の方と交流することになった作者が、ハンセン病患者への差別と学校生活におけるいじめという名の差別は、根底では同じであることに気づき、差別やいじめに「NO!」と言えようになると決意します。

⑤「絆」

中学校の卒業を控えて、小学校の時から同じ地域のラグビースクールでプレーしてきた手に障害を持つチームメイトの「健太」との今までを振り返っています。

(46分)

サ「わたしたちが伝えたい、大切なこと」

～アニメで見る 全国中学生人権作文コンテスト入賞作品～

「全国中学生人権作文コンテスト」入賞作品を原作とした3つのアニメーションを通して「人権ってなんだろう」と、自分自身の問題として考えてもらうことを目的として作成されています。

①「差別のない世界へ」

中学生である主人公が、自らの経験を通して差別される側の心の痛みを知り、父の言葉を思い起こして差別に立ち向かう勇気を得る経緯を描きます。

②「手伝えることはありますか」

事故で右手を失った父に対して、「何でもやってあげよう」と考えた主人公ですが、実際の父との暮らしの中で、やがて大事なことに気づきます。

③「共に生きるということ」

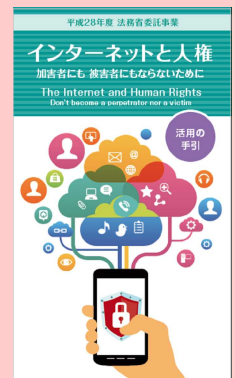
主人公が、人権学習の講師として来た視覚障害のある小林さんの言葉を聞くことで、自分が今まで持っていた障害のある人＝弱者という考え方が変わっていく過程を描きます。

(31分)

シ「インターネットと人権」

具体的な事例から、インターネットを利用する上での危険性や、安全な利用法・対策について、分かりやすくまとめています。

(30分)



メニュー5：ワークショップ

ワークショップ型の人権啓発は、単に人権侵害や差別をなくすことに留まらず、すべての人々が人権を自分事として捉え、社会形成の当事者としての意識を持ってもらうように導きます。参加・体験型であるワークショップは、参加者の理解と共感を引き出すことにポイントが置かれ、指導者が自分の考えを押し付けるのではなく、参加者自身が自分と向き合い、自発的に考え、思い、気づくことに特徴があります。

ワークショップのプログラムの全体構成は「オープニング（導入）」→「ワーク（展開）」→「クロージング（まとめ）」の3つから成り立っています。各段階はアクティビティ（共同体験・共同作業）で構成されています。どのようなアクティビティにするかは、目的やテーマ、制限時間等を考慮して選定し、その組み合わせは様々です。



メニュー6：人権かるた

かるた遊びを通して、人へのやさしさや思いやりの心、そして命を大切にすることを育むことを目的として作成しました。

読み札は県内各小中学校に応募依頼し、絵札は宮崎日本大学高等学校芸術学科のみなさんに協力を依頼し、読み札に合わせて描いてもらいました。

人権かるたを使用した人権教室やかるた大会のほか、貸し出しも行っています。なお、貸出期間や個数についてはご相談ください。



メニュー7：講話

人権擁護委員や法務局職員が、①子どもの人権一般、②いじめ、③インターネットや携帯における被害、④デートDVなどについて講話を行います。その他のテーマについても、ご相談ください。



※ 人権教室の開催を希望される場合は、**約1か月前までに**、最寄りの法務局へご連絡ください。

宮崎市、西都市、国富町、綾町、高鍋町、新富町、西米良村、木城町、川南町、都農町の学校

宮崎地方法務局人権擁護課
宮崎人権擁護委員協議会
Tel 0985-22-5124



人権教室の申込先

学校等の所在地	申 込 先
宮崎市 西都市 国富町 綾町 高鍋町 新富町 西米良村 木城町 川南町 都農町	〒880-8513 宮崎市別府町1-1 宮崎地方法務局人権擁護課内 宮崎人権擁護委員協議会事務局 電話 0985-22-5124 FAX 0985-28-3705



人権イメージキャラクター
人KENまもる君



人権イメージキャラクター
人KENあゆみちゃん



人権教室申込書

(申込先：宮崎人権擁護委員協議会FAX:0985-28-3705)

申込日：平成 年 月 日

団体・グループ名			
住所			
(ふりがな)			
御担当者			
連絡先	TEL:	FAX:	
	mail:		
希望する 人の権内 の教室 内容	テーマ		
	<input type="checkbox"/> 人権かるた <input type="checkbox"/> 読み聞かせ(紙芝居又は冊子) <input type="checkbox"/> DVD上映 <input type="checkbox"/> 人形劇 <input type="checkbox"/> 寸劇 <input type="checkbox"/> 人権に関する講話 <input type="checkbox"/> 指定なし <input type="checkbox"/> その他(具体的に)		
希望日時	第1希望	月 日()	時 分～ 時 分
	第2希望	月 日()	時 分～ 時 分
	第3希望	月 日()	時 分～ 時 分
会場	会場名		
	所在地		
会場の付帯設備の有無	<input type="checkbox"/> パソコン <input type="checkbox"/> DVDプレーヤー <input type="checkbox"/> プロジェクター <input type="checkbox"/> スクリーン <input type="checkbox"/> 音響設備		
参加者の概要	年生 名, 保護者 名, 教職員 名 年生 名, その他() 名 <small>(複数の学年を希望する場合は, 学年ごとに人数を記入してください。)</small>		
その他(要望等)			

■希望日時の概ね1か月前までに本申込書を提出願います。

なお、人権教室の内容は、宮崎人権擁護委員協議会で取り扱っているものに限りますので、内容によってはお受けできない場合もございます。

人権教室申込書

(申込先：宮崎人権擁護委員協議会FAX:0985-28-3705)

申込日：平成 ○ 年 ○ 月 ○ 日

団体・グループ名	法務小学校		
住所	宮崎市別府町1番1号		
(ふりがな)	じんけん		
御担当者	人権 まもる		
連絡先	TEL: ○○-○○○○	FAX: ○○-○○○○	
	mail: houmu@co.jp		
希望する 人の 内 容	テーマ いじめについて		
	<input type="checkbox"/> 人権かるた <input type="checkbox"/> 読み聞かせ(紙芝居又は冊子) <input checked="" type="checkbox"/> DVD上映 <input type="checkbox"/> 人形劇 <input type="checkbox"/> 寸劇 <input checked="" type="checkbox"/> 人権に関する講話 <input type="checkbox"/> 指定なし <input type="checkbox"/> その他(具体的に)		
希望日時	第1希望	○月 ○日(水)	10時15分～11時45分
	第2希望	○月 ○日(水)	13時30分～14時30分
	第3希望	○月 ○日(木)	9時00分～10時00分
会場	会場名	法務小学校体育館	
	所在地	同上	
会場の付帯設備の有無	<input checked="" type="checkbox"/> パソコン <input checked="" type="checkbox"/> DVDプレーヤー <input type="checkbox"/> プロジェクター <input checked="" type="checkbox"/> スクリーン <input type="checkbox"/> 音響設備		
参加者の概要	5年生 30名, 保護者 名, 教職員 4名 6年生 30名, その他() 名 <small>(複数の学年を希望する場合は、学年ごとに人数を記入してください。)</small>		
その他(要望等)			

■希望日時の概ね1か月前までに本申込書を提出願います。

なお、人権教室の内容は、宮崎人権擁護委員協議会で取り扱っているものに限りませので、内容によってはお受けできない場合もございます。